

環境学習施設に関する「有志による意見交換会」における主なご意見

開催日時:2018年8月22日水曜日 18:30-20:30

開催場所:フィランセ西館 2階 視聴覚室

参加者:14名

意見交換会(覚え書き)*あくまで非公式な意見交換です。

・現状では「3R 協働活動プラットフォーム」の組織づくりが第一課題では

- ごみの減量化の話は審議会がやればよいのでは

本意見は、「新設ごみ焼却炉の処理能力が現状のごみ排出量からみて小さすぎる。そのことへの対応も、この環境学習施設で考慮すべきではないか」とのご意見に対しての反論意見として出たものである。

確かに「ごみの減量化」は、この環境学習施設の活動テーマの重要な位置付けではあるが、それは、新焼却炉が稼働した後の活動テーマであり、既存焼却炉稼働中(新設焼却炉稼働まで)の「ごみの減量化」活動は別途推進されているとの意見である。

新設焼却炉の施設規模(焼却能力)の設定は、平成16年4月2日に富士市長に提出されたごみ処理方式等選定検討委員会(焼却方式とその規模について審議答申)検討結果報告書に以下のように明記されている。

「施設規模は富士市のごみ処理基本計画である「フジスマートプラン21」の目標値等から、最小270t/日~330t/日の範囲と算定し検討を行い、最終的規模は施設整備計画を取りまとめる中で決定されることになるが、決定に際しては、フジスマートプラン21に掲げた減量化・資源化施策を鋭意推進した上で、行政において適正な進行管理を行い、目標達成を予測・把握し、決して過大なもの或いは過小なものとならないよう留意すべきである。」

とある。そして、この審議会の中で、時の生活環境部長は、この「フジスマートプラン21」の目標値等は、「行政の責任において達成する」と明言している。

(今日の参加者の中に、当時の検討委員会委員だった、私、太田真弓さんがいる)

このように、施設規模は、富士市の「フジスマートプラン21」(ごみ削減計画)とリンクして設定されたもの(新設焼却炉稼働時点でごみ排出量は、「この程度になっている」「この程度にする」)で、新焼却炉稼働後のごみ削減計画には大きな貢献を果たすことは言うまでもないが、新焼却炉能力に対し、現状のごみ排出量オーバーを、この環境啓発施設が新焼却炉稼働当初までのその能力不足解消に対応する施策を含んでいるということはない。そもそも、時期が合わないではないか。

ごみ削減計画を踏まえ処理能力を決定し、新焼却炉工事に着手した現在、施設規模設定の根拠となっているごみ削減計画の目標達成は、行政(廃棄物対策課&廃棄物減量化等審議会)の主導の下、別途推進されている(はず)である。

・そもそも今回の会議の位置づけは?(公式?非公式?なぜ市が案内を出した?)

- コンセプト等中心を決めなければ枝葉が作れない

環境学習施設の「コンセプト」が不明確ではないかとのこと意見をお持ちの方がいるが、どの程度のものが必要かという点では意見が分かれよう。

この環境学習施設の設置の意味、目指すものを記載してある行政文書として、地元との協定書を受け、市が平成 25 年 12 月に作成した「新環境クリーンセンター環境学習・環境啓発計画」というものがある。これは、地元の要望も取り入れて作成された環境学習・環境啓発施設の具体的構想計画書であり、その後の市側の施設具体化へのスタート文書として位置付けられる。

「新環境クリーンセンター環境学習・環境啓発計画」

http://pinkfox5.sakura.ne.jp/awr99632/wp-content/uploads/2018/07/180427_02_kihonkeikaku.pdf

環境学習施設の「コンセプト」が不明確とご発言されている方々、この「第 1 章 リサイクルセンター（修理・再生棟）について」に記載されている程度では、不明確で先に進められないと言うのかと問いたい。まずは、この程度の内容でスタートし、今後、個々の事業プログラム具体化の中でそれぞれ自分達の言葉として枝葉を拡げていくということでは不十分なのか。

- ・市の 3 回目の会議の延長、4 回目の位置づけで会議を

(4 グループに分かれた内容をブラッシュアップする会議を) 次回はビオトープ?

- ・なぜ最初にあったプラットフォームは無くなってしまったのか?
- ・現在のクリーン工房や、市の立ち位置(思い)がよくわからない
- ・今回の案内は市が出している。議事録をとりにくる姿勢がないのがおかしいのでは
- ・もう少し市は市民が抱えている疑問にきちんと回答、説明をすべきでは
- ・環境学習施設の話なのになぜ教育員会が来ない?観光に位置付けるなら観光課、公園なら緑の課、行政側が協働してないのに市民に丸投げはおかしいのでは
- ・なぜ 3R プラットホームを発展させて事務局を作らなかったのか
- ・議事録が出ないのは会議ではない(が、市が出さないなら意味ない)
- ・核の部分がみんな見えてないのに進めなければならない坂本さんも大変
- ・非公式の会合を進めても説得力がない・議事録は配布して当たり前
- ・事務局不在で 31 年度になって困るのは市側ではないか
- ・坂本さんは事務局的な動きをするのではなくアドバイザーとして
- ・組織体を作る話は公式な場でやらなければ
- ・市と参加者の意見交換会をセッティングしたい(坂本さんはオブザーバーで参加)
- ・会議の参加者で、全部を把握している人は誰もいない
- ・有志で事務局準備室をつくるべき 坂本さんは今後はアドバイザーとして
- ・市に提出した意見・資料がフィードバックされていない
- ・ビオトープについても何も進んでない?(その他過去の情報もオープン化してほしい)
- ・富士市特有(独自)の考えを出していかないと
- ・現在までのプラットフォームのベースになるものを市民活動センターで掲示してほしい

- ・同じことの繰り返しはもうダメ。主役が坂本さんのままでは・・
- ・事業プログラムはすでに沢山の団体が考えてある。どんどん意見を集約していくべき
- ・とりあえず市民活動センターが今回の参加者のメールを集約。